

利賀・水無 ミズバショウを觀賞 最多100人

秘境に清らかな姿

ミズバショウの一大群生地として知られる南砺市利賀村水無の水無湿原で2日、観賞会が開かれた。8回目の今回は、県内外からこれまでで最も多い約100人が参加。湿原一帯を散策し、清らかな風情を漂わせる白い仏炎苞に見入った。

【webunに写真3枚】



清らかな風情を漂わせる水無湿原のミズバショウ

水無湿原は標高約1400m。岐阜県境に近い白木水無県立自然公園内にあり、ブナの原生林に囲まれている。湿原に向かう県道は通行止めで県の許可がないと通れない。

観賞会は、利賀地域のナチュラリストらでつくるNPO法人利賀飛翔の会（中西邦康理事長）が開催。県自然保護協会や富山森林管理署、南砺市ナチュラリスト連絡協議会のメンバーのほか、東京都内の学生、社会人らが参加した。

一行は登山口から1時間ほど歩いて湿原に到着し、観察した。水無湿原のミズバショウは葉に緑色の斑点があり、県内では珍しいという。カタクリやリュウキンカも咲いており、参加者は写真に収めていた。東京都板橋区の会社員、加藤貴之さん（28）は「ミズバショウを見たのは初めて。上品な姿に癒やされた」と話した。

水無湿原では乾燥化などでミズバショウの生育環境が悪化したため、利賀飛翔の会などが2003年から保全整備している。せきを作って水の流れを調節し、景観を守るため灌木を刈り取っている。中西理事長（70）は「貴重な財産である水無湿原を後世まで大事に残したい」と話した。